



## 「夢」と「育ての心」

二学期が始まり、子どもたちは運動会へ向け毎日練習をしております。ご家庭でもお話が出ていますでしょうか？本年は「夢育」をテーマに様々な競技を練習しております。お子様との運動会お話の際には、励ましの言葉をかけてあげてください。子ども達は、様々な夢を膨らませております。

親御さんにも「夢」があるのではないのでしょうか？例えば、お子様をこんな風に育てたい、大きくなったらこんな人になってもらいたい、こんな生き方をしてほしい。あるいは、ご自身のお仕事でAということ成し遂げたい。社会貢献でBということをしたい。等々、様々な夢があるのではないのでしょうか？その夢を考えたり、かなえようとする親御さんの背中を見て、感じてお子様は日々成長していきます。

日本の幼児教育の父と言われている倉橋惣三先生の著書「育ての心」。そこには、子育て中の親御さんにも大変参考になる部分がございます。そこに、子供たちが、そして親御さんが「夢」をかなえるヒントがあるかもしれません。

## 「育ての心」～倉橋惣三書～

自ら育つものを育てようとする心、それが育ての心である。世にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である。育つものと育てるものとが、互いの結びつきに於て相楽しんでいる心である。

育ての心。そこには何の強要もない。無理もない。育つものの偉[おお]きな力を信頼し、敬重して、その発達に遵[したが]うて発達を遂げしめようとする。役目でもなく、義務でもなく、誰の心にも動く真情である。

しかも、この真情が最も深く動くのは親である。次いで幼き子等の教育者である。そこには抱く我が子の成育がある。日々に相触るる子等の生活がある。斯[こ]うも自ら育とうとするものを前にして、育てずしてはいられなくなる心、それが親と教育者の最も貴い育ての心である。

それにしても、育ての心は相手を育てるばかりではない。それによって自分も育てられてゆくのである。我が子を育てて自ら育つ親、子等の心を育てて自らの心も育つ教育者。育ての心は子どものためばかりではない。親と教育者とを育てる心である。

つぶやき 年長宿泊保育 ～レッドアロー号列車内にて～

園長 「今日は電車に乗れてうれしいな。」

男児A 「どうして？」

園長 「だってね、いつもはバスで子ども園に通っているから、皆と一緒に電車で楽しい！」

男児B 「僕は丸ノ内線で子ども園に通っているよ。」

男児C 「僕は自転車の後ろに乗ってくるんだ。」

男児A 「僕も自転車の後ろに乗ってくるよ。」

でも、園長先生って子ども園に住んでるんじゃないの？（真面目な顔で。。。）

園長 「え？」（それもいいアイデアだなと、ちょっとだけ思いました。）

